

環境経営レポート

<2023年度版>



発行日：2024年 2月 28日



目次

1. SDGsの取組	2P
2. 組織の概要	3P
3. 対象範囲	3P
4. 実施体制	4P
5. 環境経営方針	5P
6. 当期環境目標及び中期目標	6P
7. 環境目標の達成状況	7～10P
8. 環境目標達成のための計画と実績	11P
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、 並びに違反及び訴訟の有無	12P

1. SDGsへの取り組み



エンプラは、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、事業活動を通じてより良い未来の実現に貢献してまいります。

2022年4月、株式会社エンプラは長野県SDGs推進企業(第12期)に登録されました。

エンプラ SDGsの取り組み

	①女性管理職の登用 →女性管理職0人を1人以上にする
	②製造工程から排出される産業廃棄物排出量の削減 →産業廃棄物量の10%削減
	③再生材料の検討 →再生材料使用率0%を10%に増加

品質方針

『クレーム0』を目標に意識改革を行い、
お客様の信頼と満足を得る『適正品質』を提供する。

1. 適正品質

顧客ニーズに応える適正品質を求め、常に“品質第一”を念頭に置いて行動する。



2. 人材の育成

社員一人ひとりの持つリソースに着目し
個性を伸ばし、人間性豊かな人材を育成する。



3. 継続的改善

業務を改良する品質マネジメントシステムを構築し、
顧客満足の向上に繋がる継続的改善を実施していく。



4. 品質目標

年度ごと、時節に合った品質目標を設定し、PDCAを
回し続けることにより、効果的な達成を目指す。



2023年 2月21日

株式会社エンプラ

取締役社長 遠藤 考則

2. 組織の概要

- ◎会社名 株式会社 エンプラ
- ◎所在地 長野県佐久市根々井15-5
- ◎代表者名 取締役社長 遠藤 孝則
- ◎環境管理責任者 環境管理課課長 鵜田 勝志
- ◎連絡先 TEL : 0267-67-2371
Fax : 0267-67-4646
E-mail k-tokita@enpura.co.jp
- ◎事業内容 射出成型用精密金型の設計・開発・製造・販売、
プラスチック成型品等の製造・販売

◎事業規模

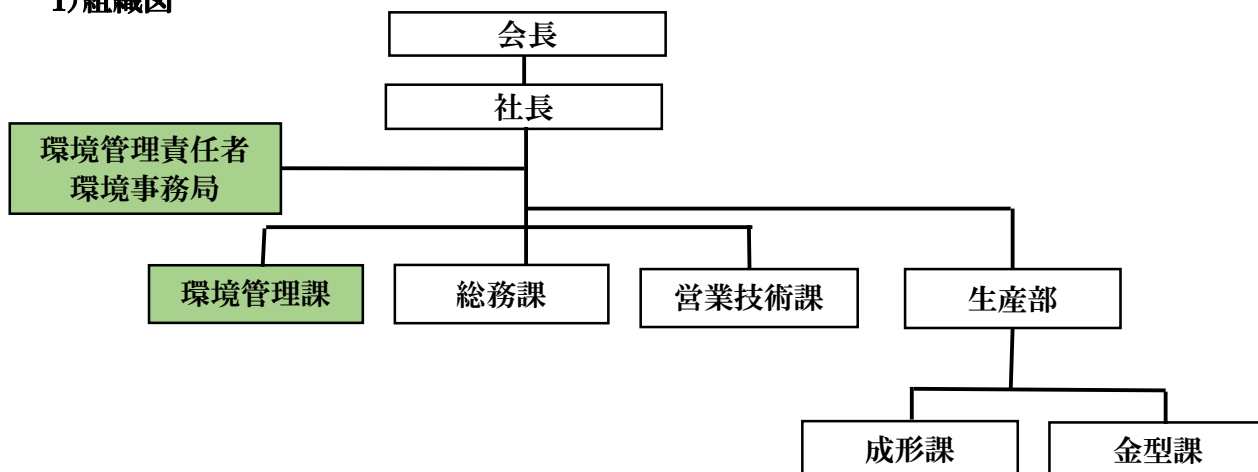
創業	1956年11月1日
資本金	4,500万円
売上高	1,250,000千円
敷地面積	6,781m ²
従業員	54人

3. 対象範囲

レポート対象期間 2023年3月～2024年2月

4. 実施体制

1) 組織図



2) 責任及び権限

代表者	- 環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 - システムの構築・運用及び管理に必要な資源を用意する。 - 環境経営方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 - 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施する。
管理責任者	- 代表者に代わりシステムの構築・運用状況を監視、結果を代表者に報告する。 - 環境関連法規等の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする。 - 環境経営目標を設定し、環境活動計画を確認し承認する。 - 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。
事務局	- 環境管理責任者の補佐。 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック原案の作成。 - 環境経営目標・経営計画原案の作成及び実績の取りまとめ - 環境経営レポートの作成、公開(社内に備付けと地域事務局への送付) - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 - 環境管理責任者の指示のもと、環境経営システムの運用を行う。 - 方針に基づき、目標及び活動計画の策定を行い、承認を得る。 - 是正処置又は予防処置を実施、結果を環境管理責任者に報告する。 - 関連法規、等及び最新情報の収集と実行、順守確認のまとめ及び管理。 - 活動の実績結果を収集、環境管理責任者に報告する。
部門責任者	- 環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告。 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理。 - 緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練の実施と記録。 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	- 環境経営方針、環境経営目標を基本に定められた活動計画に従い業務を遂行する。 - 環境負荷の低減、品質向上、安全の確保と業務改善の提案 - 異常時、緊急時の報告

5. 環境経営方針

私達は、お客様の信頼と満足を得る『適正品質』の提供から廃棄削減し二酸化炭素低減を図る「地域と共生し、地球環境にやさしい」プラスチック製造工場を目指します。

1. 材料発注から製品出荷までの工程内に於いて、すべての資源を含め無駄を省き、全社員の英知を結集して環境マネジメントシステムの継続的改善、環境汚染の予防に努めます。
2. 環境関連の法規および地域・業界団体の協定を遵守します。
3. 省エネルギー、省資源および廃棄物の削減に配慮した環境目的・目標を掲げ全社的な目標とします。
4. 全社員への教育と啓発活動により環境保全に対する環境意識の向上を図ります。
5. RoHS、REACHに対応した製品を購入し、環境へ配慮します。

見直日 2023年2月21日

制定日 2022年1月11日



代表取締役 遠藤 孝則

6. 2023年度環境経営目標及び中期目標

削減率・・・基準値(2021年)を100%とした場合の該当年実績の効果値を管理する。
(係数は中部電力(株)2020年度、CO2調整後排出係数 0.379kg-CO2/kWhを使用)
目標値は製品売上100万円当たりのCO2/排出量としています。

3月～翌年2月

項 目		単 位	基準値(2021年)	2022年目標	2023年目標	2024年目標
環境効率指標 【原単位】		kg-CO2/ 百万円	790.7	782.8	774.9	767.0
		削減率 %	100%	99%	98%	97%
		CO2総排出量 (kg-CO2)	664,224	657,582	650,940	644,297
電力による CO2排出量の削減		kg-CO2/ 百万円	700.8	693.8	686.8	679.8
		%	100%	99%	98%	97%
ガソリンによる CO2排出量の削減		kg-CO2/ 百万円	22.2	21.9	21.7	21.5
		%	100%	99%	98%	97%
軽油による CO2排出量の削減		kg-CO2/ 百万円	34.8	34.4	34.1	33.7
		%	100%	99%	98%	97%
灯油による CO2排出量の削減		kg-CO2/ 百万円	33.0	32.7	32.4	32.0
		%	100%	99%	98%	97%
可燃物 排出量の削減		kg/百万円	3.1	3.1	3.0	3.0
		%	100%	99%	98%	97%
廃プラ 排出量の削減		kg/百万円	82.0	77.9	73.8	69.7
		%	100%	95%	90%	85%
水道 使用量の削減		m ³ /百万円	4.0	4.0	4.0	4.0
		%	100%	100%	100%	100%
製品 及び サー ビス	成形工程不良率の削減		1.26%	1.00%	1.00%	0.90%
	RoHS・REACHに対応した 材料の購入		顧客要求に対し 100%	顧客要求に対し 100%	顧客要求に対し 100%	顧客要求に対し 100%

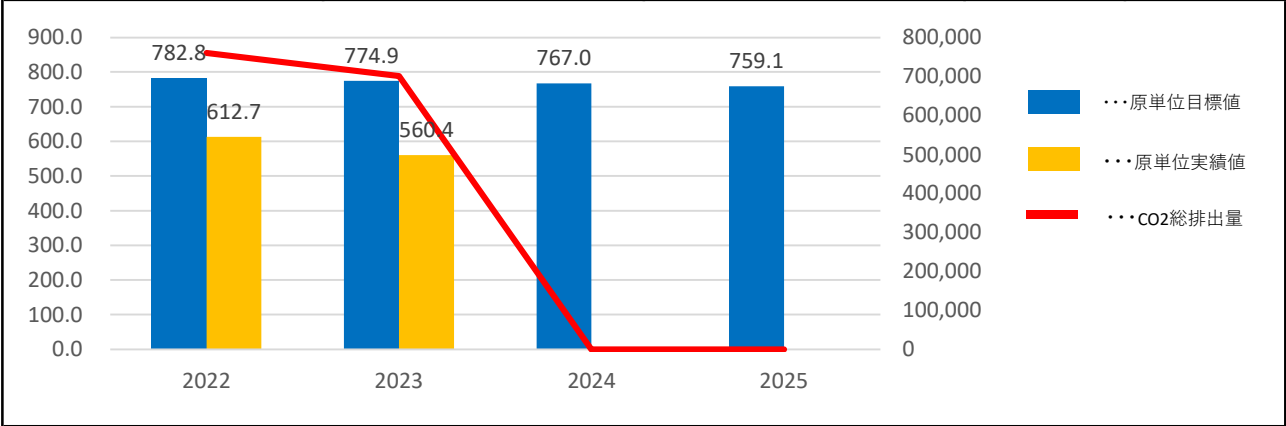
※CO2総排出量の記録はとるが、環境効率指標【原単位】で評価する。

7. 環境目標の達成状況

・目標値及び実績の分母は製品売上としています。

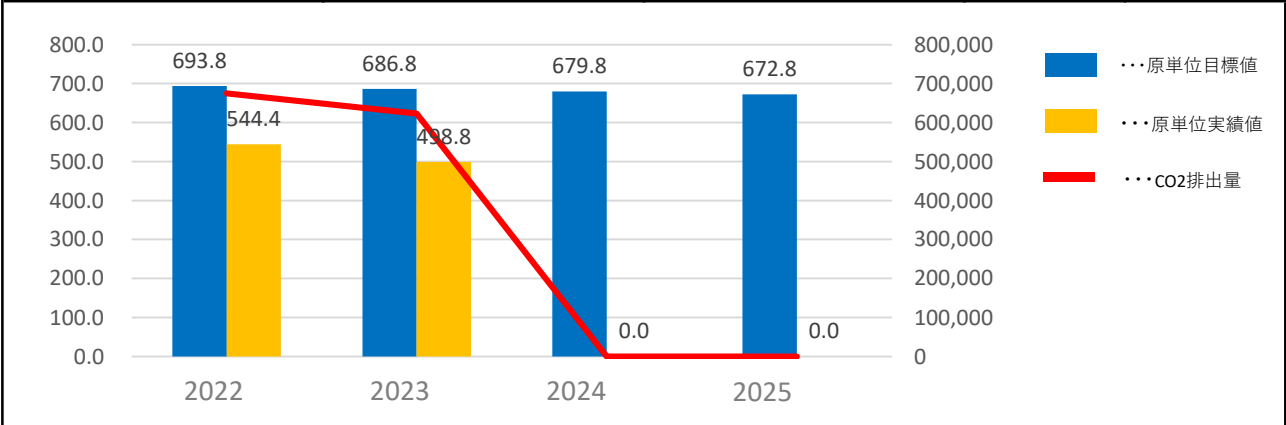
【評価基準】 目標達成 =○
目標未達成 =×

環境効率指標【原単位】 (kg-CO2/百万円)	SDGs	7 持続可能なエネルギー 7.2.5 再生可能エネルギーの割合を2030年までに 少なくとも2倍に増やす	11 住み続けられるまちづくりを 11.6 2030年までに、都市と人間の居住地の環境 への悪影響を大幅に削減する	13 気候変動に具体的な対策を 13.1 2030年までに、気候変動防止に向けた 強固な政策を推進する
2023年度 目標値 【kg-CO2/百万円】	実績(単位) 【kg-CO2/百万円】	CO2総排出量 【kg-CO2】		判定
774.9	560.4	700,498		○



結果と次年度の取組
2022年度原単位実績:612.7に対し2023年度原単位実績は560.4とCO2排出削減。2023年度目標達成。
原単位は2022年度と変化は少ない中で、52.3ポイントの現象は売上に対する効率が目標を上回り高実績であった。
2024年度は本社工場通年稼働の年。実績の基礎元年と位置付け、改めてCO2排出量の基準年にしたい。

電力による CO2排出量	SDGs	7 持続可能なエネルギー 7.2.5 再生可能エネルギーの割合を2030年までに 少なくとも2倍に増やす	12 つくる責任 12.2 2030年までに、産業と製造業のCO2排出量を 2020年水準から少なくとも50%削減する	13 気候変動に 具体的な対策を 13.1 2030年までに、気候変動防止に向けた 強固な政策を推進する
2023年度 目標値 【kg-CO2/百万円】	実績(単位) 【kg-CO2/百万円】	CO2排出量 【kg-CO2】		判定
686.8	498.8	623,527		○



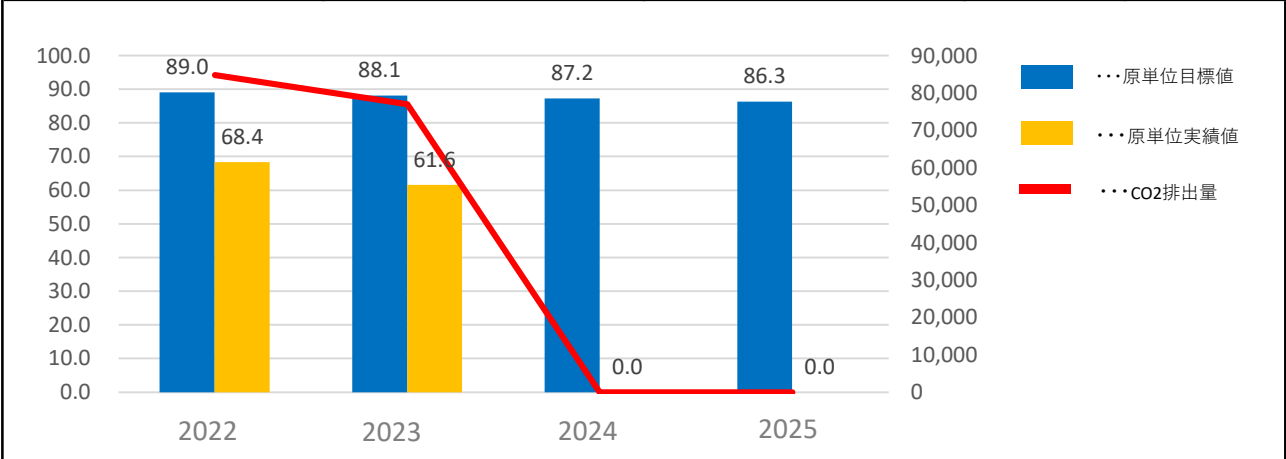
結果と次年度の取組
2022年度原単位実績:693.8に対し2023年度原単位実績は498.8とCO2排出削減。2023年度目標達成。
本社工場稼働に伴い、冷暖房を灯油からエアコンに替えていることから年間を通しての使用量変化に注意。
脱炭素の取組の一環として、”CO2フリー電気”を電気量全体の10%購入を2024年3月より実施。
デマンドコントロールを導入して電力の「見える化」を2024年度より導入。

7. 環境目標の達成状況

・目標値及び実績の分母は製品売上としています。

【評価基準】 目標達成 =○
目標未達成 =×

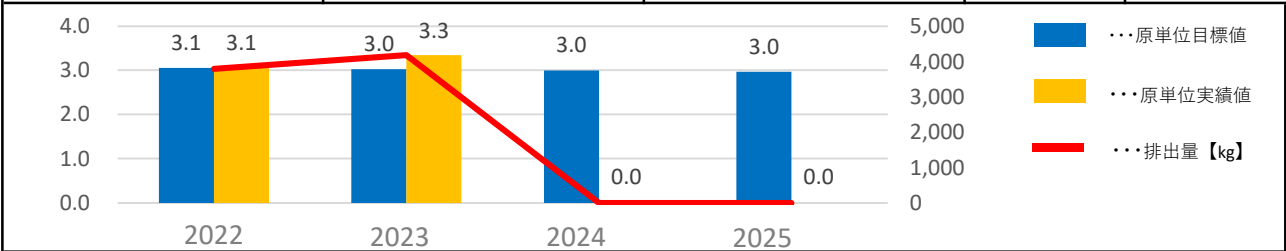
化石燃料によるCO2排出量	SDGs	7 産業・エネルギー分野に力を入れる 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を	
2023年度 目標値 【kg-CO2/百万円】	実績(単位) 【kg-CO2/百万円】	CO2排出量 【kg-CO2】	判定
88.1	61.6	76,971	○



項 目	ガソリン	軽油	灯油
判 定	○	○	○
実績 【kg-CO2/百万円】	18.88	23.91	18.78

結果と次年度の取組
2022年度原単位実績:68.4に対し2023年度原単位実績は61.6とCO2排出削減。2023年度目標達成。
軽油→2022年度並/ガソリン→1,000L強増/灯油→3,400L弱減(本社工場稼働に伴う使用量減)
顧客クレーム及び品質情報の削減から不具合対応に伴う出張削減(ガソリン使用量の削減に寄与)。

可燃物排出量	SDGs	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任	
2023年度 目標値 【kg/百万円】	実績(単位) 【kg/百万円】	総 量 【kg】	判定
3.0	3.3	4,180	×



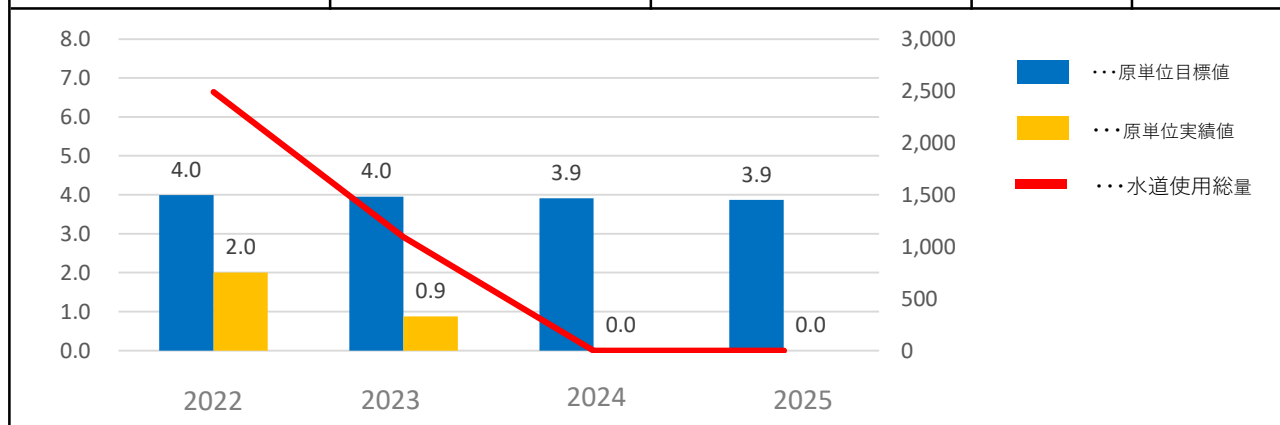
結果と次年度の取組
旧工場から本社工場へ引っ越しに伴う、イレギュラーな可燃物廃棄増から
2022年度原単位実績:3.0に対し2023年度原単位実績は3.3とCO2排出増加。2023年度目標未達成。
雑紙運用状態の再確認と見直し。

7. 環境目標の達成状況

・目標値及び実績の分母は製品売上としています。

【評価基準】 目標達成 = ○
目標未達成 = ×

水道使用量	SDGs	6 安全な水とトイレを世界中に	14 海の豊かさを守ろう
2023年度 目標値 【m ³ /百万円】	実績(単位) 【m ³ /百万円】	総 量 【m ³ 】	判定
4.0	0.9	1,094	○



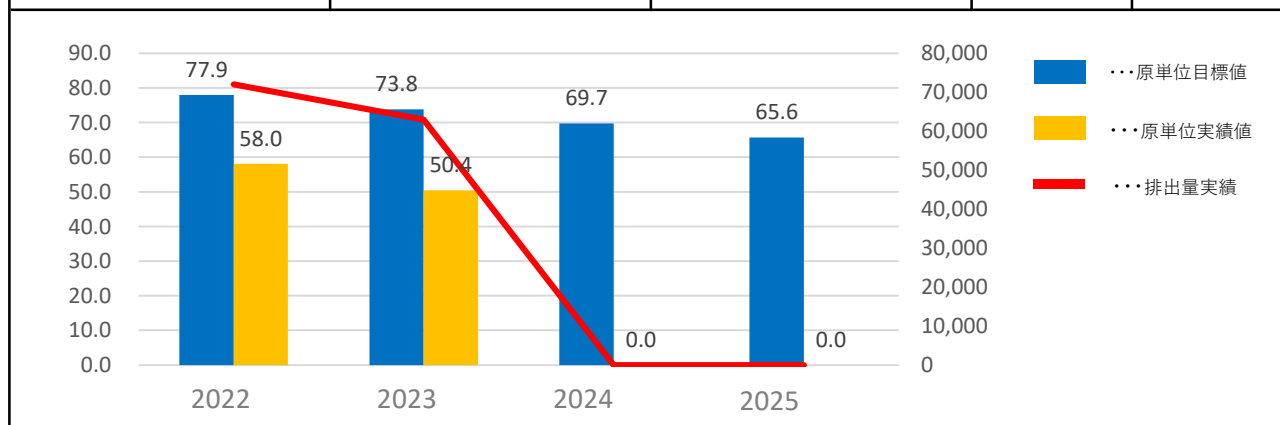
結果と次年度の取組

2022年度原単位実績:2.0に対し2023年度原単位実績は0.9と削減。2023年度目標達成。

2022年度使用量実績:2,492Lに対し2023年度使用量実績は1,094Lと6割強の使用量削減となった。

→2024年度は実績監視。

廃プラ排出量	SDGs	9 産業と経済活動の 基盤をつくらう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
				
2023年度 目標値 【kg／百万円】	実績(単位) 【kg／百万円】		総 量 【kg】	判定
73.8	50.4		63,013	○



結果と次年度の取組

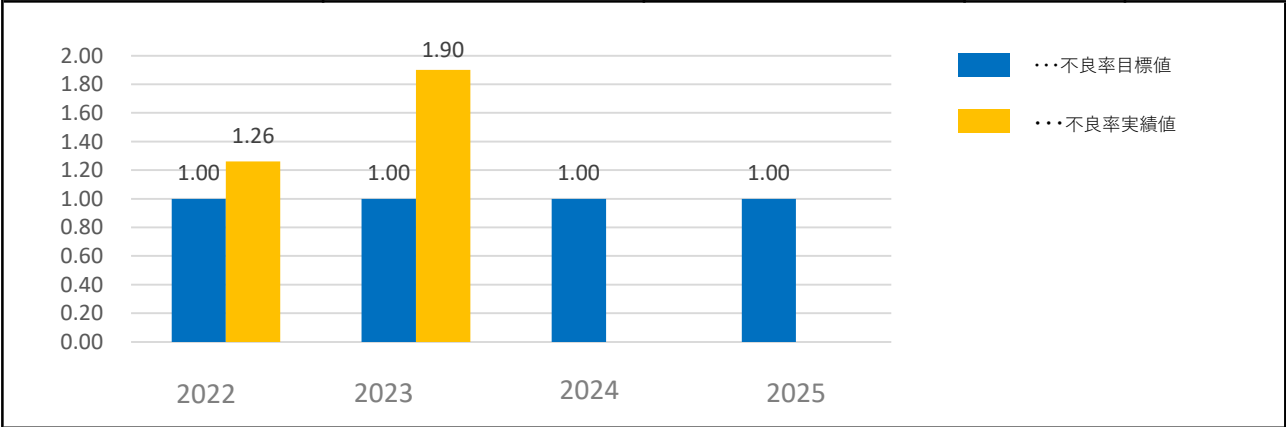
2022年度原単位実績:58.0に対し2023年度原単位実績は50.4とCO2排出削減。2023年度目標達成。

→次年度の工程不良削減活動で工程不良の削減を実現させて、更なる廃プラ排出量削減を実現させる。

7. 環境目標の達成状況

【評価基準】 目標達成 =○
目標未達成 =×

工程内不良率	SDGs	8 働きがいも 経済成長も	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	
2023年度 目標値 【%】	実績(単位) 【%】				判定
1.00	1.90				×



結果と次年度の取組
2022年度・2023年度と目標未達成(2022年度比0.64ポイント悪化)
ISO9001活動にて実施中の課題であるが、好転の兆しが見えてこない。
→成形工程での作り込み品質悪化起因→人の配置を含めた生産体制の再構築

RoHZ・REACHに対応した材料の購入
顧客要求対応率

項 目	2022	2023	2024	2025
判 定	○	○		
目 標 【%】	100	100	100	100
実 績 【%】	100	100		

顧客からの材料要求に対応／chemSHERPAでのデータ取得と提供を行った。

まとめ

目標を超える工程不良の発生は余計な電気使用・廃プラ量の増加。併せて不良修正・不良選別対応・代替納品等により出張も増え、化石燃料の使用量増加につながります。
品質＝環境に影響を及ぼすことを改めて社内に伝達する必要があります。

電力・化石燃料(ガソリン・軽油・灯油)・可燃物・廃プラについてはCO2排出量を原単位を用い環境効率指標で活動の評価を行いました。
可燃物以外は目標を下回る実績となり、目標を達成できました。

8. 環境経営目標達成のための計画と実績

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み	達成状況	実施結果と次年度取組み
環境効率指標管理	◎	2022年度原単位実績：612.7に対し2023年度原単位実績は560.4とCO2排出削減。2023年度目標達成。 本社工場での年間通しての稼働が2024年度が基礎となる。目標値は現計画で実行する。
電力によるCO2排出量の削減		
・冷房設備のシーズン前にフィルター清掃実施	○	基本的な非稼働時の設備電源OFFや使用しない部屋の電源OFFは定着している。 不良率の削減が課題として来年度に持ち越し。 工程内品質の安定に努め、不良率削減 脱炭素の取組として「Greenでんき」10%購入。 本社工場稼働開始に伴い年間通しての電気使用量基礎年度になる。
・新工場稼働によりLED化	◎	
・室内温度管理→冷暖房のON／OFF	○	
・ライン停止時、非作業時の設備電源OFF	○	
・製造設備の立上げ待機時間短縮	○	
・不良率の削減	×	
化石燃料によるCO2排出量の削減		
●自動車燃料		
・計画的な配送経路立て	○	各社有車に掲示を行い意識改革実施。(エコ推進) コロナによる出張制限が緩和されて出張が増えた。 顧客クレーム対応による選別・修正に伴う出張削減→ 工程内品質の安定を目指す。
・アイドリングストップ	○	
・エコドライブの意識向上	○	
●灯油使用量削減		
・室内温度管理→冷暖房のON／OFF	○	本社工場側に全成形機の8割程度を移動。旧型の成形機を第三工場に残して生産。 使用は第三工場の一部と金型工場の一部だけとなり、 使用量は確実に削減可能→2024年度実績監視。
・冷暖房時の扉の開けっ放し防止	○	
・時間外勤務時間の削減	△	
可燃物の排出量削減		
・雑紙に分類される紙類のリサイクルへ	△	旧工場から本社工場へ引っ越しに伴う、イレギュラーな可燃物廃棄増。 雑紙に分類される紙類のリサイクル方法の再徹底。
・勤怠管理のインターネット活用(紙使用廃止)	◎	
・段ボール、シュレッター済紙は回収業者へ	◎	
廃プラの排出量削減		
・廃プラの適切な処分	○	2022年度と同程度の売上推移でも廃プラ削減幅が大きい。廃プラ業者実績から排出量を監視しているが、工程不良の目標未達がありながらも排出量は目標達成できた。→工程不良率の削減。
・生産時に発生するランナーの削減(ホットランナー化)	△	
・不良率の削減	×	
水道使用量の削減		
・検針による使用量のチェック	◎	検針による実績水道使用量減(生産量が2割減となったことを加味しても削減幅が大きい) 2024年度も継続して使用量変化の監視を行う。
環境配慮製品の販売・提案		
・RoHZ、REACHに対応した材料の購入	○	顧客要求に対応したchemSHERPAのデータ取得。 継続実施を行う。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反及び訴訟の有無

(1) 当社に適用される法規制等と現在までの遵守状況

当社の業務に適用となる義務規定(一部それ以外を含む。)の主な環境関連法規等とその主な内容、

注) チェック欄…○:遵守 ×:不遵守 ✓:該当なし確認 (―:判断なし)

法規制等の名称	適用される事項 (施設、物質、事業活動)	証拠書類、等	判定
廃掃法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属くず、 廃プラ、廃油等)の適正処理	契約書・許可書	○
		(紙)マニフェスト	○
		法定掲示板設置	○
消防法	少量危険物の取扱い	指定数量の1/5以上の届出	○
プラスチック資源循環法	顧客設計による製品図面で環境配慮要否確認	顧客発行図面	○
フロン排出抑制法	全ての機器	簡易点検記録	○
	圧縮機7.5kW以上50kW未満	定期点検記録	○

(2) 違反及び訴訟の有無

上記環境関連法については、遵守チェックリストにより、確実に法規を遵守していることを確認しました。

また、過去3年間、関係各機関から特に指摘・指導は無く、訴訟もありませんでした。

10. 経営者の見直し評価と指示

■環境経営目標及び環境経営計画

今年度は環境効率指標【原単位】目標達成したことは評価できる。これは2022年度比で生産数が2割減となった背景もあるが、エコアクション活動がどれだけ寄与しているか検証を進めていきたいと思います。

しかし、工程不良率は目標未達成で、不良増加の歯止めがかけられなかった。

品質が環境に影響している事実を従業員全体が認識して生産活動を行う必要があります。

今年度念願であった本社工場の新社屋が完成し、11月より稼働開始しました。これにより冬季暖房を灯油メインからエアコンに切り替わりました。また、全館集中制御にてエアコンを管理を行い、効率的な温度管理＝電気量管理を行います。

次年度より「脱炭素」の取組で弊社も「CO2フリー電気」を10%購入。また、電気使用量を「目で見える化」を行えるようデマンドコントロールを導入し、気付かぬうちに契約電力を上げてしまう現状を打破していきたいと考えております。

■環境経営方針

2023年度に見直した「環境経営方針」を次年度も継続します。

■実施体制

事務局を担当する部署を品質保証課から環境管理課に名称変更を行いました。

株式会社エンブラ

代表取締役 遠藤 孝則